

釧路郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔

□ 2 □

クラシック音楽 昭和五十年に渡米後、
をより身近にと 大学、大学院でバイオリ
の研鑽を積み、演奏者、
また指導者として高い評 価を受けながら、六十二
年には三年間音楽学部教



ジャンルを問わず日夜研さんを怠らない札木さん

授を務めていたカンザス 大学を退官し、帰郷。ふ るさと釧路を活動拠点に して十年になる。「ヨーロ ッパで活動しようと思っ ていたが、今帰らないと、

オの活動を年二回のペー スで続け、地元在住のパ イオリニストとして親し まれるとともに、清冽な 音色、繊細な表現力で多 くのファンを引きつけて

度には釧路市文化奨励賞 を受賞している。 新しいレパート リー増やす

演奏、指導に大活躍

今後、小中高での演奏に力

自分にはふるまよと呼べ るところがなくなってい まうと思った」と、当時 を語る。「クラシック環境 に決して恵まれていると

いる。年に一度は米国、 オーストラリアでコンサ ート、公開レッスンも実 施、自宅ではバイオリン

「自分にとっては新しい レパートリーを増やし、 お客さんには耳新しい曲 と出合ってもらいたい」と、古典から現代曲まで ジャンルを限定すること なく、研鑽を怠らない。 今後も年に二度の定期的 な演奏活動を継続しつ

音楽

バイオリン

札木朗里さん(四〇)

(釧路市若竹町10の2)

外でのリサイタル、トリ 帰国後、釧路及び道内 教室を開くなど国内外 で、演奏に後進の育成に と幅広く、エネルギーに ユな活動をみせている。 父と姉がバイオリンに 親しんでいたことから、 一歳半ですでに楽器を手 にしていた。最初は宮崎

活躍し、帰国。平成三年